

平成 24 年度 第 2 回 獣医学共用試験委員会 議事録

日 時：平成 24 年 8 月 14 日（火）13:30～19:00

場 所：東京大学農学部 3 号館 105 号室（会議室）

出席者：

酪農学園大学：山下和人教授	北海道大学：稲葉睦教授
北里大学：高井伸二教授	岐阜大学：北川均教授
岐阜大学：杉山誠教授	酪農学園大学：遠藤大二教授
麻布大学：浅井史敏教授	東京大学：尾崎博教授
東京大学：杉浦教授	
オブザーバー（株）ジンジャーアップ 松本博希氏（開発部グループリーダー）	

報告事項

- 交通事情（大雨のため、東海道新幹線が運転遅延）で委員の到着が遅れ、出席予定者 9 名全員が揃ってから、30 分遅れで会議を開始した。
- ジンジャーアップ・松本氏に関連する問題精選システムに関する意見交換を行い、来週水曜日（8 月 22 日）頃までに、精選システムが運用可能となるように、松本氏に依頼した。
- 第 1 回獣医学共用委員会議事録案（資料 1）を承認した。

審議事項

1. 獣医学共用試験の基本的考え方の確認（資料 2-1～5）

共用試験制度に関する基本的な考え方について、関係資料により確認した。共用試験の理解醸成のために、Q&A の作成を杉山委員に依頼した。中央教育審議会大学部会（第 108 回）大学教育部会（第 20 回）（平成 24 年 7 月 24 日開催）において、専門教育課・内藤課長から獣医学教育における質保証の取り組みに関する説明があったとの報告が尾崎委員よりあった。その中で、モデル・コア・カリキュラムの策定による教育内容・方法の改善促進、大学間連携による教育体制の充実、第三者評価に加え、参加型臨床実習前の学生評価に共用試験の導入について説明されたことが強調された。共用試験に関する理解醸成と啓蒙のために、基本的な考え方についての資料を充実させ、HP 等を通して、獣医学教育関係者のみならず、参加型実習教育を支える現場獣医師に対しても分かりやすく広報することとした。

2. 平成 24 年度（秋）全国大学獣医学関係代表者協議会

平成 24 年 9 月 13 日の全国獣医系大学代表者協議会において、共用試験委員会の活動状況を報告するよう依頼があった。最初に高井委員長が全体像を説明し、小委員会の経過報告・審議事項については各責任者（杉山・浅井・北川・高井・渋谷）が説明することとした。このため、今回の資料を一部修正の上、報告用に取りまとめることとした。

3. 各会議・委員会の経過報告

1) 共用試験委員会、獣医学共用試験大学代表者会議（資料 3）

委員長より、各大学・私大協からの依頼にしたがい、下記のように獣医学共用試験大学代表者を変更したとの報告があった。

東大：尾崎先生→桑原先生

日大：鎌田先生・上地先生→上地先生・森友先生・松本先生

北里大：高井先生→宝達先生

麻布大：浅井先生・藤井先生→土屋先生・村上先生

vet-CBT 小委員会の IT に関する機能を強化するため、遠藤委員（酪農大）の同委員の追加が承認された。vet-CBT 問題フォーマットマニュアル（FM）小委員会の IT 関連実務者（16 大学）とトライアル実施小委員会の実務委員（16 大学）を同じとすることについて話題提供があり、小委員会の名称も含めて今後検討することとした。

2) vetCBT 問題 FM 小委員会（資料 4）

浅井委員から第一回問題作成作業の結果、7720 題が作成されたとの報告があった。大学別・科目別出題数の詳細データについて、次回以降の依頼のための参考資料とすることとした。

4) vetCBT 小委員会（資料 5）

杉山委員より vet-CBT 問題の精選・修正作業に関して、精選システムの開発が遅れているため、計画より遅れているとの報告があった。また、実際に問題の精選作業を行う vetCBT 問題内容検討部会のうち臨床 B の科目委員選出が滞っているとの報告があり、対応について検討された。望月委員が多忙であることが原因と考えられることから、責任者を山下委員（酪農大）に交代する方向で早急に検討を進めることとした。

5) vetOSCE 準備小委員会（当日配布）

北川委員から、これまでの経過報告が資料を用いて説明された。小委員会は 4 月から 2 回開催し、メール会議で随時検討しているとの報告があった。

6) トライアル実施小委員会（資料・アンケート調査）

高井委員長より、これまでの経過報告があった。本小委員会として各大学から IT 環境整備の委員をお願いする予定である。一方で、vetCBT 問題 FM 小委員会の各大学で選出予定の委員と任務が重複していると考えられ、それについて今後検討することとした。

科研費の本年度事業計画となっている共用試験アンケート調査の原案が提示され、早急に検討することとした。

7) 広報小委員会

渋谷委員が欠席のため、杉山委員がこれまでの概要を説明した。獣医学共用試験の HP に関する意見・提案と今後掲載すべき内容についての検討依頼があった。

8) 獣医学教育モデル・コア・カリキュラム委員会（資料 3-8）

共用試験に関連して、共通テキスト編集時に生じるモデル・コア・カリキュラムに関する要望について尾崎委員より紹介があった。これまでに 1) 到達目標の順番の変更、2) 文言の修正、3) 到達目標の追加の要望があり、1) と 2) は可能であるが、3) の追加は認められないとの説明があった。ただし、コアではないとの注釈を入れて、追加到達目標を教科書に記述することは可能であり、改訂の際の参考とするとの意向が示された。

4. 今後の検討事項

1) 獣医学共用試験

a. トライアル及び本試験実施までのスケジュール（資料 6）

資料に沿って杉山委員から、トライアル試験及び本試験実施までの日程案の説明があり、細かな日程については臨機応変に対応する必要性を念頭に、概ね了承した。

b. 運営体制の確立（機構の設立）（資料 4-1-b）

杉浦委員から、平成 28 年 3 月（平成 27 年度）に一般社団法人として獣医学共用試験実施評価機構（仮称）を立ち上げ、次のステップで、文科省・公益法人へと変更を予定しているとの説明があった。初年度予算額について、資料により説明があった。

c. 大学負担金及び受験料の設定（資料 7-1）

受験料については、様々な要望と学生の経済状況を勘案し、2 万円以内に設定するよう努力することとした。大学会費は 20 万から 50 万円とすることで、収入額の確保などに関する議論を行った。事業費などで不透明な点も多くあり、継続検討課題とした。

d. 実施環境の整備（トライアル及び本試験、サーバ、端末等）（資料 8、資料 4-2-b）

尾崎委員より資料により CBT 実施に伴う設備・装置の比較に関する説明があった。さらに、遠藤委員から、低コスト・高安定の実施形式に関する提案があった。専用 PC 室、ノート型 PC、タブレット型 PC の 3 種の比較があり、総合的にはタブレット型 PC（iPad など）が価格、セキュリティー、波及効果などの面から優れており、これを利用することを決定した。大阪府大からの実施環境に関する問い合わせについては遠藤委員が対応することとした。

e. 実施日程及び追試験制度（資料 9）

標記について検討し、実施日程は 4 年後期末及び 5 年前期末を想定しているが、詳細な実施日程については、16 大学の全国協議会で調整する必要があるとの結論となった。追試験及び再試験をそれぞれ 1 回実施する方向で進めることとなった。

f. 試験結果の取扱い（判定基準等）

資料により先行する分野での基準点の設定について説明があった。これらを参考に、CBT 試験は 60%以上で合格、OSCE は 4 段階（A～D）で D 評価があれば不合格、C 評価が半数以上でも不合格とする方向で検討を進めることとした。

g. その他

2) vetCBT（当日配布）

a. 第 3 回トライアル試験までのスケジュール

杉山委員から当日配布資料を用いてスケジュール案の説明があった。

b. 問題精選システムの確立（当日資料提示）

遠藤委員より精選システムの開発状況について説明があり、マニュアルの作成とともに近日中に稼働する目途が立ったとの報告があった。

d. 問題検証システムの確立（尾崎委員資料 4-1-f）

杉浦委員より、項目反応理論を用いた CBT 問題の検証に関する説明があった。検証のためには、トライアルの回数、学生数、出題数などについて勘案する必要があるとの説明がなされた。例えば、出題は医学部ではランダム方式であるが、獣医学では問題評価の点からも難しく、薬学のような問題をセットで準備することが妥当ではないかとの意見が述べられた。精度についても、1 問あたりの回答者数が少ないので、医学部のようにはならないことが予想されるとのことであった。重要事項であるので、引き続き検討を進めることとした。B

e. 試験実施の具体的方法（問題数、試験時間等）

先行する分野の共用試験を参考に、CBT は問題数 300 問、試験時間 6 時間で実施する方向で進めることとした。

f. 問題データの維持管理

遠藤委員から、CBT 問題データの維持管理に関する説明があった。重要事項であることから、今後も継続で検討することとした。

h. 各トライアル試験（vetCBT）の目的及び実施方法

今回提案されたスケジュール案に沿って実施することで、準備に入ることとした。

i. コアカリ改訂への対応

コアカリの 4 年後の改訂に向けて、CBT 問題に関しても検討を進めることとした。

3) vetOSCE

（当日配布）

a. 具体的内容

北川委員より、これまでに小委員会で検討された具体的な内容について配布資料をもとにして、説明があった。医療面接を核として、5 つのステーションでの試験を検討している報告に対して、実施可能な範囲に縮小すべきではとの意見が交わされた。内容については、今後もさらに小委員会で検討するよう依頼した。

c. 科学研究費申請

OSCE を実施するためには、各種シミュレーターの開発が不可欠であり、この費用は科研費などを利用したいとの提案があった。これに対して、科研費に相応しい内容かとの疑問符もあったが、さらに、文科省、私大協、あらゆる方策を検討することとした。科研費の場合は、遅くとも、9 月の全国獣医系大学代表者会議でお願いする必要があるので、早急に結論づけることとした。

例「科研費・基盤研究 B 獣医学臨床教育用スキルズラボの開発に関する研究」

d. トライアル試験と必要な環境整備

トライアル実施小委員会と共同で環境整備に関する検討を進めることとした。